



CONTENTS

沈黙を破る女たち—映画「トークバック」までの道程.....	01
ぶれいす東京 2012年度総会・活動報告会.....	02
冊子「Living with HIV ～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～」.....	04
ネスト・プログラム.....	05
オトナの女的 女医に教わるカラダのメンテナンス.....	06
NLGR+2013.....	07
部門報告 (2013年4～6月).....	08
2013年度 新人ボランティア合同研修・オリエンテーションのご案内.....	12

沈黙を破る女たち—映画「トークバック」までの道程

坂上 香 映像作家・特定非営利活動法人 out of frame 代表

私と HIV/エイズの接点は今から20年前に遡る。

当時テレビで番組制作をしていた私は、企画探しのために図書館を訪れていた。ワシントンポストの紙面に目が釘付けになった。幼い女の子が楽しそうに女性に抱きかかえられている写真。米国の主要紙を飾るぐらいだからワケありなのだろうと思った。

それは HIV/エイズ関連の記事だった。女性は NIH (米国立衛生研究所) のソーシャルワーカーで、女の子は HIV陽性である。母子感染だという。子ども達が描いた絵も掲載されていて「エイズで天国にいったママ」と題された絵には、胸をかきむしられる思いがした。

当時日本では、HIV/エイズといえば薬害エイズ。母子感染は初めて目にする用語だった。しかし考えてみれば感染経路に関係なく、陽性者が出産すれば感染の可能性はある。感染の有無に関わらず、陽性の家族を持つ子どもたちはどのような問題に直面し、どのようなケアが必要なのだろう。このような関心から1990年代半ば、私は2つの番組を作った。

日本限定放送という条件付きで取材を受けてくれたのは、ニュージャージー州にある子ども病院エイズプログラムだった。その手厚い医療と社会的支援のあり方に驚かされた。病院では医師、看護師の他に、ソーシャルワーカー、精神科医、栄養士がチームになって患者のケアを行い、訪問看護も頻繁に行われていた。闘病のためには告知が不可欠と5歳から告知を行い、そのための工夫もなされていた。陰性の家族へのケアや親をエイズで失った孤児への対応等は、病院と行政と複数の民間団体が連携して行う。当時日本では感染者の受け入れ拒否をする病院が少なくなかったから、その全てに感動した。と同時に、地域における偏見は根強く、取材対象者は偏見と死への恐怖に苦しめられていた。

それから20年近くたった現在、再び HIV/エイズに関連する映像を制作している。「トークバック 沈黙を破る女たち」と題したドキュメンタリー映画である。

実は、1996年に2つ目の関連番組を作った以降、私の関心は暴力の加害・被害というテーマに移り、HIVからは

遠ざかっていた。2006年からサンフランシスコの女性刑務所を拠点とする女性だけの劇団「メディア・プロジェクト：囚われた女たちの劇場」(メディア)を取材し始めていたが、同劇団が大学病院の HIV/エイズ女性プログラム (WHP) と共同で演劇プロジェクトを立ち上げたことで、再びこの問題と向き合うことになったのだった。

まず驚かされたのが、HIV/エイズをめぐる差別や偏見が米国といえども20年前とあまり変わらないということ。サンフランシスコはリベラルな町で、最先端の医療に加えて、陽性者へのサポートも豊富かつ多様なことで知られているから、HIV をめぐる差別や偏見は過去のものだと思い込んでいた。

しかし、である。メディアの取材をするなかで、陽性の女性達は病について家族や周囲にも明かしていないことや、明かした相手からあからさまな差別を受けたりしていることを知った。

WHPのディレクターをつとめるエディ・マッティンガー医師は指摘する。

「HIV/エイズは死に至る病ではなくなった。にも関わらず、患者は死に追いやられている。その原因は沈黙だ。」

患者の直接の死因は、自殺、薬物の過剰摂取、殺人、投薬の中断だという。陽性者を追いつめる社会的状況はなかなか変わらない。マッティンガー氏は女性達の自尊心を高める必要性を感じた。それが社会的変化を促すことにもつながると信じたからだ。彼自身ゲイで、沈黙がいかなる負担を生むかは経験済みである。彼はメディアのアプローチに注目し、代表者に話を持ちかけた。女性患者が病や自らについてオープンに語ると同時に、社会に対して異議を申し立てる場を一緒に作ってくれないか、と。

そうして2年をかけて作られたのが「愛の道化師と踊る」というオリジナル作品である。告知の瞬間について、周囲に明かした時の反応について、感染以前と以後の変化について……女性達が書いた詩に、振り付けや音楽が加えられていく。スポットライトを浴びて舞台上に立つ女性達。そして彼女達のその後。

メディアの8年間を追った本映画は、間もなく完成する。

ぷれいす東京 2012年度総会・活動報告会

総会・活動報告会が5月26日に新宿区戸塚地域センターで開催されました。活動報告会は参加者・スタッフ・ゲスト合わせて86名の盛会となりました。

2012年度の総会・活動報告会が開催されました。前半は、恒例のリレー式部門報告。7部門18名が次々と登壇して、日頃の活動の様子をいきいきと伝え、リアリティにあふれた充実した時間となりました。

後半は、「HIVと薬物使用～刑事施設からの社会復帰」と題したトークコーナー。刑事法が専門の若手研究者である丸山泰弘さん（立正大学／刑事法担当）と、ダルクのスタッフ中山雅博さん（アパリ・クリニック上野／日本ダルク職員）をゲストにお迎えして行われました。

丸山さんは、言わば自傷行為としての側面が強い薬物使用がなぜ刑法の対象となるのかといった素朴な疑問をもった自身の経験から話し始め、闊達に語りつつ要所をシャープに指し示していただきました。一方、中山さんは、ご自身の薬物使用と回復と支援経験を、いかにも肩の力のぬけた“普段着”で語っていただきました。また、このコーナーの司会をつとめた生島からは、この企画のために事前に集められた、HIV陽性者で受刑の経験がある方々のコメントも読み上げられました。

以下、5名の参加者から寄せられた感想文をお届けします。

参加者より

「楽しくなければやってゆけない、居心地がよいから続けられる。」

学習院大学講師 岡野 浩

今回始めて活動報告会に参加させて頂き、ぷれいす東京の活動の一端に直に触れることで、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

当日は報告会が始まるや、まさに分刻みのスケジュールにあっという間の二時間半で、各部門ごとの報告からは、限られた人的、物的資源を最大限活用しながら、根気強く課題に取り組まれている皆様のご苦労が伝わってまいりました。各部門フロアーの参加者からのご意見や質問等の時間が十分に取れば、さらなる盛り上がりをもせたかもしれませんが、会場確保の問題等やむをえないこともありましょう。

「HIVと薬物使用」についての報告では、性関係、特に



丸山泰弘さん



中山雅博さん

男性同性愛者／MSMでの薬物使用の実態とHIVの関係の深刻さが取り上げられていました。こうした問題の背景には、一見自由で寛容そうにも見えるわが国におけるMSMをはじめ、性的マイノリティーにとっての＜生き難さ＞があるようにも思われ、いろいろ考えさせられる二時間でもありました。

ただ全体を通じて最も印象に残ったのは、その会場全体に漂う不思議なく居心地の良さ＞でした。病であれ、セクシャリティーであれ、だれもが様々な背景や事情を抱えていても、ありのままの自分でいられる、そして気の置けない普通の付き合いが出来る。この極当たり前のようで、実際にはなかなか得難い＜場＞を作り上げ、支えていらっしゃる皆様のご努力に心よりエールを送りたいと思います。

会場を後にしながらふと「楽しくなければやってゆけない、居心地がよいから続けられる。」という言葉が浮かんできました。

「ぷれいすと私の成長」

肩書き：社会に出たくない大学生

ペンネーム：“内定なくて困ってます”

5月26日に初めて活動報告会に参加させていただきました。私がぷれいすのお手伝いをさせていただいて、もうすぐ2年になろうとしています。

活動の経緯も大切ですが、私が最も勉強させていただけるのは、恥ずかしながら、時間的拘束や目上の人との関わる態度であったりします。普段は大学生としてちゃらんぼらん生活を送っておりますが、一方ではもうすぐ就職し、社会に出る立場の身として自分の未熟さを痛感させられることばかりです。

活動報告会の当日も日曜日にやっとの思いで高田馬場に向かい、荷物運びや会場作りをお手伝いさせていただきました。しかし報告のために、私の予想した以上の多くの人が集まり、「HIVのことを一緒に考えている人がこんなにいるんだな」と少し幸せな気持ちになりました。

私が活動に参加させていただいた当初、抱いた想いとなんら変わらない事実。私が学生として怠惰な毎日に鞭を打ち、活動に参加させていただくのも、人の想いに触れること、そして自分の成長への糧にさせていただいているのではないかと思います。今後も「優しく」ご指導願います。笑。

「心の奥を見つめる場」

aozora（家族）

ぷれいす東京からいただいた冊子やニュースをいつも楽しみに読んでおりました。病いを得た時の動揺や、服薬開始時の不安を乗り越えて、生きることの意味や自分とは何かを真摯にみつめる姿に、心洗われるおもしろいし、共感を抱いていました。

私自身は、なんとか自分の心を鎮めようとして、人は

四百四病を持って生まれてくるんだとか、命には「限り」があったんだ、とか、困難を避けるためには、残された選択肢の中で生きるしかないと思うようになっていました。

でも、それは、当人には何の力にもならなかったのです。いまをいきる若い命は、生きがい、希望を、愛を求めずにはいられなかった。自分の意思や感情をわかり合えるひとを、絶望の中から探していたのです。

本当の愛を求めて、波乱万丈 疾風怒涛 七転八倒な人生を歩んできたアナタへ。

活動報告会での初めての出会いで、肌で感じた「何か」は「本物」かもしれない。病気があっても障害があっても、理解しあい大切にしたいなら、これこそ究極の幸せといえるのではないかな。自分に向き合い、自分に嘘つかずに生きていくと、相手をありのまま受け入れる事ができるのでしょうか。(男と女の間には深く暗い川がある…)って歌のとおりだと思っていた私は、若い力が逞しく、渉る(わたる)方法を探している姿を見ました。

ぶれいすの活動は、この部門は首つっこむと面倒だからやめとこうってのなしで、ニーズのある分野には優れた人材が配置され、やればやるほど広がり深まっていてるって印象でした。

そんなふうにして新しく生まれたプログラムの中には、私自身に迫られているテーマもあり、心を見つめる学びの場にしたいと思いました。

「政策課題として薬物・依存に取り組むために」

石坂 わたる (中野区議会議員(無所属))

今回の「部門報告」や、トークコーナー「HIVと薬物使用～刑事施設からの社会復帰」では、薬物や依存に関する自治体の取り組むべき課題を改めて考えさせられました。

と言いますのも、ここ近年、セックスドラッグを含む、依存とHIVについて話を聞くことが多くなり、私自身も議員活動の中で依存とHIVと貧困を抱えた方から相談を受けたことがあるためです。市区町村レベルでは、薬物を使用していない人に対する「ダメ絶対!」という観点での予防と、刑事施設や医療機関からの社会復帰については不十分ながらも何らかの取り組みが行われています。しかし、常用中の方の社会復帰や、医療機関等への接続についての取り組みはまだまだという所が多いようです。

依存について、彼岸のものと考えてのではなく、多くの人にとって身近な自分たちの課題として考えてもらえるようにしていく施策の大切さを強く感じました。

「ほっとする場所、ぶれいす東京」

武田 飛呂城

最近、テレビはげんなりするニュースばかりで、電源を入れる回数が減りました。もう「あまちゃん」と「ハー

トネットTV」と「マツコ&有吉の怒り新党」しか見てません。

みんな、余裕がないんでしょうか。弱い立場の人を「努力が足りない」とか「自己責任」と言って責めたり、些細な違いをあげつらってひどい言葉を浴びせたり。なんだか生きづらいなあと思うのです。自分だって、ちょっとしたあやで「そちら側」に行ってしまうことだってあるはずなのに、そんな想像すらしないんでしょうね。

そんな中、ぶれいす東京の活動報告会に参加しました。

ぶれいす東京は、HIV陽性者支援を中心に、様々な人を支援する活動をしています。いろんな人が活動の報告をしてましたが、共通して言えるのは、まなざしが優しいということです。ああ、この人たちは、人間が好きなんだなあと思いました。人の良いところだけでなく、どうしようもないところも含めて好きなんだらうなど。活動の中で仮に嫌なことがあったとしても、その時は「ちくしょー、激おこブンブン丸!」と思ったとしても、でも大丈夫、人間は変わるって信じている人が、活動を続けているんだと思いました。

そんなみなさんの表情を見ていたら、気持ちがほっとしました。ありがたいなあと思って、元気になりました。日本にこういう場所があるというのは、本当に貴重なことだと思います。しなやかにゆるやかに、活動を続けてくれたら嬉しいです。

…なんて他人事みたいに言ってるだけでなく、私もお手伝いしたいと思います。今後ともよろしくお願いします。



満員の会場～ネスト部門の報告をする4名～



Peer Empowerment Program ～オトナの女性部門～(左から、あやの、ひとみ、いみ)



パディ部門の報告(左から牧原、あおい)



研究成果を報告する樽井理事



トークコーナー(左から)丸山泰弘さん、中山雅博さん、生島代表

冊子「Living with HIV

～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ～

HIV陽性者のパートナー、配偶者、家族、友だち、職場の仲間など……身近な人からHIV陽性と伝えられた、さまざまな人たちのための冊子が発行されました。

「冊子の編集にあたり」

矢島 嵩

身近な人から HIV陽性と伝えられるというのは、どのようなことなのでしょう？

実は、そこには典型といったものなどないと言い切れるほどの、多種多様な体験があることを知りました。HIV陽性者ひとりひとりの性格や考え方が異なるように、伝えられるひとりひとりもまた当然のことながら多様です。そして、それをつなぐ両者の関係性は千差万別なのです。

「伝える人・伝えられる人・その関係」といった要素に、HIVに関する知識やイメージ、タイミング、体調や精神状態、医療やサポートネットワークとのつながりなど、さまざまな要素が加わり、無数の状況を生み出しています。

この冊子の企画段階では、身近な人から HIV陽性と伝えられた人たち誰にでも手軽に役立つガイドブックを作ろうと考えていました。しかし、何編かの手記を目にした時点で、数パターンのみを想定したノウハウ本のようなものは作り得ないということに気づきました。そこで、さまざまな立場や状況にある人たちに、できるだけ多くの体験談を書いてもらい、それら手記を主役に据え、基礎知識を補足するためのコラムを添えるという形に編集方針を転換したのです。

この冊子には、HIV陽性と伝えられた人・HIV陽性の人による計24編の手記と、いくつかの短いコラムが19枚の写真とともに掲載されています。手記は、それぞれ筆

者の個人的な体験がつづられたものですので、それが誰にでも当てはまるとは限りません。しかし、読者のみなさんのそのときの気持ちや状況を照らし合わせたりしながら、少しばかり情報整理をしたりしながら、ゆっくりとページを繰ってみてください。どこかに共感できるポイントや、明日につながるヒントを見つけることができるのではないかと思います。

「手記収集の経験から」

生島 嗣

編集会議で、HIV陽性者の周囲で暮らす人たちが HIV を告げられた、カミングアウトされた経験談を盛り込もうと話し合いました。

執筆依頼を始めてみると、周囲の人たちがカミングアウトをされた経験を書くという行為は、今なお難しさを伴うことだと再認識しました。もちろん、すんなり書いていただけた方もいましたが、なかには HIV陽性本人との関係性への影響や周りからの見え方に気遣い、OKをいただくまでに時間を要した方もいました。そのため、依頼を陽性者本人経由でお願いした場合もあります。

ぶれいす東京からの依頼だからと、難しさのなかで書く作業を快諾していただいた皆様、本当にありがとうございました。そのお陰で、カミングアウトされた他のパートナーや家族は、どうしているのかを知りたいという期待に応えられる冊子になったのではと思います。

もくじ

はじめに

第1章 伝えるということ
伝えられるということ

第2章 HIV という病気とつきあう

第3章 いっしょに過ごす
いっしょに暮らす

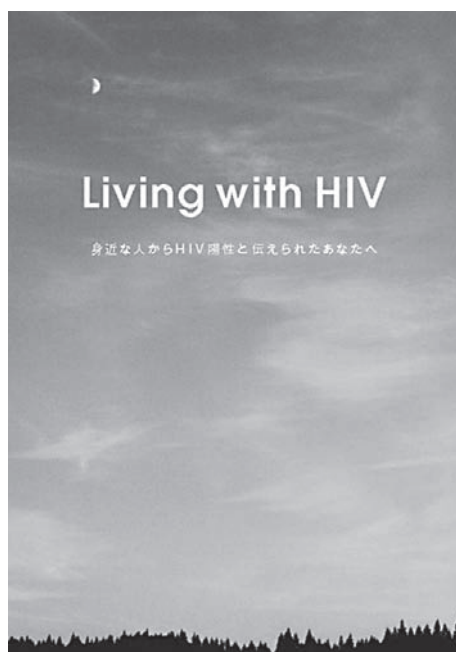
第4章 セックスについて

第5章 出会いや恋愛のこと

第6章 仕事や学校について

第7章 人生設計や将来のこと

リソース案内



A5判／60ページ

発行：ぶれいす東京

協賛：鳥居薬品株式会社

編集：矢島 嵩、生島 嗣

デザイン：新藤岳史

写真：川端知江

〔冊子（印刷版）の入手方法〕

全国のエイズ拠点病院、HIV陽性者団体、陽性者支援団体、コミュニティセンターなどにて無料で入手可能です。もし、拠点病院にない場合には、医師や看護師から鳥居薬品株式会社に問い合わせてもらってください。

〔PDF版について〕

ぶれいす東京Webサイト「冊子・活動報告書」にてPDF版をダウンロードすることができます。
<http://www.ptokyo.com/publications/booklets.php#livingwithhiv>



ネスト・プログラム

新たなプログラムとして5月18日に第1回目が行われた「ピア+トーク」、そして昨年の秋にスタートした「U40ミーティング」の参加者の感想文をお届けします。

第1回 ピア+トーク

～女性の陽性者と妊娠・出産～

5月18日に新プログラム「ピア+トーク」がスタートしました。第1回目はHIV陽性と知ったあとに、妊娠・出産をした、2人の女性にその経験を話していただきました。ゲストスピーカーと参加者の感想文をお届けします。

なお、「ピア+トーク」はさまざまな経験をもつHIV陽性者を迎えてお話をうかがうプログラムで、今後は障害者枠で就職した陽性者、キャリアチェンジした陽性者、薬物依存からの回復経験者などを予定しています。

ゲストスピーカーより

「人生いろいろ、妊娠・出産もさまざまでいいと思う」

ハナ

今回ゲストスピーカーとして参加し、また何人かのお話を伺い、最も印象に残ったのは、人それぞれさまざまな妊娠・出産がある、ということです。この病気という共通の問題を抱えているにせよ、年齢や健康状態、パートナーの協力度や仕事の状況、それに親のサポートなど、それぞれ事情が異なるなかで、『この方法だけが正しい』と、結論づけるのはおかしな話です。

また以前、よく使用されていた薬に発ガン性があることが分かり使用中止になりましたが、時間の経過とともに事実も変わっていくわけですから、従来の方法を唯一のように捉えるのもどうかと思います。自分の患者に不測の事態が起きることは避けたい医療サイドの都合から、彼らにとってコントロールしやすい方法を勧められたとしても、それが上述したようなさまざま条件のもとで、自分たちにとって最良の選択なのかは、別の問題だと思います。

結局のところ、どのような妊娠・出産であれ、これがベストという規定はなく、自分たちが取った選択が正しい方法なのだと思います。まずは自分とパートナーがリラックスして妊娠・出産を受け入れ、何より楽しみに思えるかが大事だと思います。

また、こう言ってしまうと身も蓋もありませんが、正直に言って、赤ちゃんへの投薬を除けば、あとはごく普通の妊娠・出産と何ら変わるところはありません。一般の妊娠・出産だって同じ様にリスクはありますし、母乳があげられないのはこの病気以外でもある話です。帝王切開に至っては、別に今の時代に珍しいことでも何でもなく、職場でも結構な割合でいるものです。むしろ仕事を持つ女性にとっては予定が立てやすいため好都合とも言えます。私は出産の3週間前まで普通に仕事に行っていました。

思うに病気うんぬんより、この病気を持った殆どのママが、普通にママとして育児に追われているのが現状ではないでしょうか。案ずるより産むが易し、子供は本当

に幸せを運んできてくれます。皆さんがますます元気に幸せになられることを祈っています。

参加者より

「定番にしてほしいテーマ」

M（初参加・陽性者・30代後半・既婚女性）

妊娠・出産は女性にとって一般的なことです。でも病気で体調の調整に時間がかかってしまったり。子どもを持つことに迷って妊活をはじめめる年齢が遅くなってしまう。服薬とのからみ、妊娠の方法やかかれる医療機関。なかなか情報にたどり着けないとあせっていた、一番関心があるテーマでした。

素敵な二人のスピーカーから妊娠・出産の体験をとってもらいやすくお話しいただきました。病院での人工授精以外の方法で妊娠した人がいるということ、医療の変遷、入院中の病院の対応やプライバシーのこと、生まれた子どものケアや喜びのこと、仕事との両立などなど。

今まで知りえなかった本当の情報が得られ、とても短い時間に感じられました。パートナーの方も参加されていたのもよかったです。このテーマでまたみなさんとお話しできたらと思います。参加させていただき本当にありがとうございました。

「彼女との将来のために」

GN（初参加・陰性パートナー・30代男性）

泣きながら彼女に病気のことを告白されてから半年、正直なところ、私生活において病気のことなどほとんど気にならなくなってきました。しかしこの先、彼女との将来を考えた時、避けては通れない内容が今回参加したプログラム内容でした。

将来子供を作り、家族になるための知識や問題点を今回のプログラムで教えて頂きました。まだ、具体的に明確な話を彼女としたわけではありませんが、この先彼女と幸せになるために、今回のプログラムに参加したことが必ず生きてくると思っています。

今回が初めてのプログラム参加でしたが、経験者の方、現在体験されている方の生の声が聞けて非常に貴重な時間を過ごさせて頂きました。私自身が陰性者で、パートナーとしての参加でしたので、気にされる方がいないかと少し遠慮気味だったのですが、体験談や意見を忌憚なく発言される参加者の方を見て安心し、また非常にありがたかったです。

U40ミーティング

～10代-30代の男性HIV陽性者のミーティング～

2012年10月に新プログラムとしてスタートした「U40ミーティング（10代から30代の男性陽性者のミーティ

ング)」、毎月1回ずつ平日の夜や土曜日に開催しながら、すでに10回以上の開催回数となり、のべ60名以上が参加しています。

3名の参加者からの感想文をお届けします。

参加者より

「U40ミーティングに初めて参加して」 あっくん

僕は、3月のU40ミーティングに初めて参加させていただきました。

「ミーティング」とあったので、もっと堅い感じのものなのかと想像していましたが、実際にはざっくばらんで、まるで同じ趣味を持つもの同士がオフ会で集まった時のような雰囲気、安心しました。

これまで、告知を受けてから約7年、同じ陽性者の方とまともに面と向かって話をしたことが、ありそうで全く無かったので、他の方が何を考え、普段どういう生活をされているかを知ることができたり、不安や悩みを分かち合うことができ、2時間がとてもあっという間で、充実し有意義な時間を過ごすことができました。

ミーティングが始まったばかりの時間では僕も緊張していて、他の人ともなかなか打ち解けることができず、当たり障りの無い話をしたりしていました。

しかし、途中から常連の方がお見えになり、またスタッフの方がテーマなどを決めたり、話し合いを上手くリードしてくださったので、中盤以降はみな活発に発言するようになり、自分もこれまで体験したことや、考えを躊躇無く披露することができました。また他の方の話もとても新鮮で参考になりました。

次回もまた参加できることを楽しみにしております。

「弟くん達を眺めながら…」 だい

春の暖かな気候の日(今年は花粉症がひどく楽しめる余裕はないけど)U-40に参加！。

参加は2回目、前は平日で開始された直後だったので、少なめな参加人数だったが、今回は土曜開催の影響か、10人程度が参加しており、様々な参加者がいて楽しく参加できた。

話は主に、「老後」、「どのタイミングで病気のことを受け入れられたか」、「職場で病気のことを告知するか」に焦点が当てられ、参加者の様々な体験や考え方が聞けて、共感できたり、「えっ！それ本当？」みたいな話まで出て

個人的には楽しく話が聞けた。

今回は20歳くらいから30代半ばまで(おそらく自分が最年長w)年齢が幅広くいたため、考え方の違いや、気にするポイントまで多様で興味深かった。

また、参加者が全員(おそらく)年下ということもあり、弟みたいで可愛いなーと思い、眺めてるだけで十分楽しめた。

ただ唯一残念だったのが、司会の方も言われていたが、ミーティングが終わった後に恋愛やSEXの話で盛り上がりすぎてしまい、本番の中でもっとその手の話をすれば、より深く皆の意見が聞けたかなと。次回参加する際には、その辺りの話をできればいいなと思った。

最後に、U-40はまだ始まったばかりだから進行も模索中だと思うので、こういう風に進めたい、話したいなどあれば自由に変わって行けると思うので、この感想文を読んで興味沸いた方は、ぜひ参加して、僕と一緒に盛り上げましょう。どこかの回し者みたいな締めになったけど(笑)。

「U40ミーティングに参加して」 ユウ

U40ミーティングは、今回で3回目になります。

1回目と2回目の参加者は、5人でしたが今回は10人参加者がいました。いつもの2倍、人数がいたので正直驚きました。

僕は、あと数か月で告知から約1年になります。まだ服薬はしていません。ぷれいす東京さんとの関わりは昨年からになります。PGMがきっかけで、U40ミーティングに参加する事になりました。

U40ミーティングでは自分自身の色々な疑問や不安を、ミーティング内の人達に話すことによって解消されました。年齢も20代と30代なので自分の年齢(20代後半)と、そんな年齢差もなく話ができるので共感しやすい点だと思います。

それと、司会進行役のベテランお2人も話しやすい環境を毎回作ってくれるので、毎回参加したくなる魅力的なプログラムだと思います。

たぶんですけど、自分一人で考えていたら、まだ悩み続けてたと思います。このプログラムに参加して、本当に良かったです。また参加できる時は、出席したいと思いますので宜しくお願い致します。

オトナの女的 女医に教わるカラダのメンテナンス

4月14日に、Peer Empowerment Programオトナの女性部門が開催する見学ツアーが、横浜のポートサイド女性総合クリニック「ビバリータ」にて行われました。

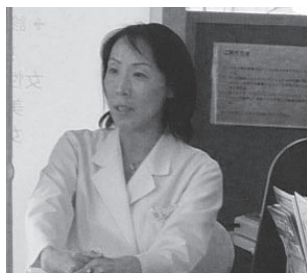
4月14日に婦人科見学ツアーを行いました。ツアー先は横浜にあるポートサイド女性総合クリニック「ビバリータ」さん。清潔感あふれとっても入りやすい院内でした。医師は全て女性ですので安心して足を運べます。

当日は20～40代の参加者11名が清水なほみ院長先生の講義を聞きました。先生のお話はとてもわかりやすく、初めて聞く知識もすんなりと耳に入ってきました。現代女性のライフスタイルは昔と異なる(食事の変化、高齢出

産、出産回数の減少、ストレス多いなど)ので、何の症状がなくとも年に1度は検診を受けるべきとのことでした。

講義の後には、先生を囲みおしゃべりタイム。女医さんとお話し出来るよい機会と、皆さん沢山質問されており、時間があっという間に過ぎてしまいました。お土産にID LUBEさんからローションのサンプリング等を提供いただきました。

アンケートでは「(院内を見学して)カーテンのない診察室は新鮮だった」「是非定期検診を受けたい」「(ピルや生理用品のことなど)誤解していたり知らなかった事が聞けて良かった」と回答していただき、大変嬉しかったです。ツアーの際に一緒に配布した初回検診割引クーポンは2



ポートサイド女性総合クリニック「ビバリータ」の清水なほみ院長

人の方が後日使用して下さり、私たちの活動が少しでもお役にたてたのだと、全員で喜びました。

私自身、知らない事が多く、もっと自分の体のメンテナンスを行っていこうと思いました。また面白い企画を考えますので是非みなさん参加して下さい。



講義の様子～ビバリータにて～

(報告：あやの)

NLGR+2013

恒例となったNLGR+ (Nagoya Lesbian & Gay Revolution Plus) が今年も名古屋市・栄の池田公園にて行われました。

今年のNLGR+は、天候にも恵まれ、地元はもちろん全国から集まった様々なセクシュアリティの人が楽しめるイベントとなりました。

HIV検査会も昨年より大幅に受検者が増え、Gフレスタッフも参加したCBO合同ブースにもたくさんの方に来ていただくことができました。今年は近隣大学のLGBTサークルが多く来ていたので、大学生のグループに各地の活動を紹介することも何度か。今年のイベントテーマは「ここから」だったのですが、まさにここが関心を持つきっかけになってもらえれば、と感じました。

そしてイベントの最後を飾る同性結婚式は、今年は何とぷれいすスタッフのカップルが登場！お二人に縁のある方も多く集まり、例年以上に心に残るイベントとなりました。実行委員会の皆様、CBOブースで一緒に過ごした皆様に改めて御礼申し上げます。



CBO 合同ブース

(報告：sakura)

「同性結婚式に参列して」

まるい

6月9日、NLGR+ 2013 (名古屋池田公園)で行われた同性結婚式に参列しました。私たちが池田公園に到着し

たとき、会場ではライブやトークショーが行われていて、大変賑やかだったのですが、結婚式が始まると会場の空気は厳かな雰囲気へと一変し、人前式ガーデンウェディングが始まりました。

結婚式では、終始感動しっぱなしだったのですが、「誓いの言葉」が特に素敵でした。出会いから今まで、お互いがなくてはならない存在となった現在に至るまでのエピソードが語られ、お二人の気持ちが言葉となって会場を包み、涙が止まりませんでした。私はホットラインスタッフの仲間として式に参列させていただきましたが、まるで家族が結婚するような気持ちになり、感無量でした。

私は性教育を実践している立場にありますが、今学校はLGBTに関する教育において、多くの課題を抱えています。今回お二人の結婚式に参加して、改めて感じたことは、子どもたちに対する教育ももちろん大事だけれど、大人が変わること、社会が変わることが先なのではないかということでした。今回のテーマ「ここから」が心に沁みてくるとともに、お二人の結婚式は私にとっても忘れられない記念日になりました。いくさん、よしさん、どうぞ末永くお幸せに…。

「いくさん・よしさん、結婚おめでとう、そしてありがとう！」

「HIVマップ」Twitter担当 加藤悠二

いくさん・よしさんの同性結婚式が開催されたNLGR+2日目は、曇りながらも雨は降らず、暑すぎず、6月の野外イベントとしては最適の気候。タキシード姿で入場する時点で、いくさんはすでに目がウルウル。お互

いへの愛に満ちた誓いの言葉、いくさんの二人の妹さんが運んできた指輪の交換、そして誓いのキスは、よしさんのオデコに、いくさんが優しくチュッ。和やかな笑いにあふれ、お二人らしいなあ…とホッコリ。

なにより印象的だったのは、お二人連名の、会場にいる全員へのメッセージ。NLGR+はHIV検査会と連動したイベントで、その日に感染がわかった方もいたことでしょう。そんな方に対して、「信じていればきっと幸せになれます」と呼びかけるお二人の姿には、HIV+のゲイとして、そのパートナーとして、共に歩み続けてきた、確かな強さと温かさがありました。参列した僕らこそが温かな贈り物を頂いた…心に残る、素敵な結婚式でした。

最後のご退場時には、CBOブースの面々が祝福のメッセージボードを一齐に掲げるサプライズ。掲げた瞬間のいくさんの泣き笑いに、「やった、大成功!」と思ったのは、ここだけのおハナシです。



部門報告 (2013年4～6月)



ホットライン

HIV/エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ぶれいす東京HIV/エイズ電話相談—

	4月	5月	6月
日数(日)	4	4	5
総時間(時間)	16	16	20
相談員数(延べ人)	6	5.5	6.5
相談件数(件)	42	38	60
うち(男性)	42	29	42
(女性)	0	8	18
(不明)	0	1	0
陽性者相談	2	0	0
要確認相談	0	0	1
1日平均(件)	10.5	9.5	12.0

—東京都HIV/エイズ電話相談(夜間・休日)—[委託]

	4月	5月	6月
日数(日)	12	13	14
総時間(時間)	36	39	42
相談員数(延べ人)	32	34.5	35.5
相談件数(件)	178	170	171
うち(男性)	157	148	135
(女性)	18	21	35
(不明)	3	1	1
陽性者相談	0	1	1
要確認相談	0	3	1
1日平均(件)	14.8	13.1	12.2

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

スタッフミーティング

4/14 (14名) 5/12 (14名) 6/16 (15名)

世話人会

4/14 (4名) 5/12 (4名) 6/16 (6名)

フォローミーティング

6/29 (3名)

個別ミーティング

6/29 (2名)

東京都電話相談連絡会

4/19 (3名) 5/10 (3名) 6/14 (2名)

東京都ボランティア講習会

5/29 (4名)

ぶれいす東京の相談件数は安定していますが、東京都の相談が大きく減少しています。6月の検査月間においても、HIV/エイズの問題が上ることが少なかったように感じます。人員を整えているので、もう少し関心を寄せて欲しいです。

(報告: 佐藤)

スタッフ人数 8名(6月現在)

ミーティング

4月 14日 横浜(5名)
5月 26日 高田馬場サイゼリヤ(5名)
6月 6日 ぶれいす事務所(5名)

活動実績

4月 14日 オトナの女的 女医に教わるカラダのメンテナンス(詳細は6~7ページ)
(報告: いみ)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング(4-6月実績)

4/4: 中止 4/18: 5名
5/4: 2名 5/16: 4名
6/6: 3名 6/20: 4名
※ 個別ミーティング 5件

利用者数

8カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の16名の方に27名のバディスタッフを派遣

活動内容(2013年6月末現在)

派遣継続中	16件
在宅訪問	16件
病室訪問	0件
派遣休止	3件

4月~6月中の動き

・派遣調整 14件

8~10月のミーティング日程

午前ミーティング:

偶数月第1木曜 11:00/奇数月第1土曜 11:00

8/1(木)
9/7(土)
10/3(木)

※ 木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング: 毎月 第3木曜 18:30

8/15(木)
9/19(木)
10/17(木)

バディの現場から

4月のお花見に2名のバディ利用者から参加希望があり、送迎の活動を行いました。また、利用者の身体状況の変化に伴い派遣活動の内容の変更があったケースや、担当の変更があったケースなど、派遣の調整が比較的多い時期となりました。

(報告: 牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況(2013年4-6月)

グループ・ミーティング

・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第68期
(参加者7名)

4/6 4/20 5/11 5/25(修了)

・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第69期
(参加者6名)

6/19

・ミドル・ミーティング

4/13(20名) 5/11(23名) 6/8(22名)

・異性愛者のための交流ミーティング

4/19(12名)

5/25(16名、ピア・ファシリテーター2名)

6/21(11名、2名)

・陰性パートナー・ミーティング

4/6(2名)

6/1(9名)

・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)

6/26(5名)

学習会

・ベーシック講座「社会福祉制度」

4/24(4名)

・ストレス・マネジメント講座第19期

5/20(7名)

6/17(7名)

トークサロン

・就職活動を報告しあう会

4/20(8名)

5/15(2名)

6/15(4名)

・介護職として働く陽性者のミーティング

4/15(8名)

6/24(7名)

・看護師として働く陽性者のミーティング

5/18(11名)

ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング

第68期振り返り 5/27(6名、6名)

・web NEST運営委員会

4/12(2名、2名)

6/14(2名、2名)

ピア・ファシリテーターによるプログラム等(厚生労働省委託事業)

・U40(アンダー・フォーティ)ミーティング

~10代から30代の男性HIV陽性者のミーティング~

4/24(参加者8名、ピア・ファシリテーター2名)

5/24(7名、2名) 6/22(13名、2名)

・ピア+トーク 第1回「女性の陽性者と妊娠・出産」

5/18(ゲスト・スピーカー2名、参加者13名)

*P.5参照

・セクレタリー(14回 14名)

・ピア・ファシリテーター(3回 6名)

ネスト・ニュースレター

4/4: 4月号発行 5/9: 5月号発行
6/6: 6月号発行

JaNP+／ふれいす東京共同プロジェクト

冊子「Living with HIV ～身近な人から HIV陽性と伝えられたあなたへ～」を4月に発行しました。詳しくは4ページをご覧ください。

また、5/6(月・祝)にシンポジウム「HIVとカミングアウト」及び映画“The Hope of Love”の上映を行い、112名の方が来場しました。(報告: 佐藤、加藤、はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

4月 12件 (1日平均3.00件)
5月 8件 (1日平均2.00件)
6月 8件 (1日平均1.65件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

4月: 0件 5月: 0件 6月: 0件

TOKYO RAINBOW WEEK

ゴールデンウィークの東京で開催された「TOKYO RAINBOW WEEK」でのJaNP+とふれいす東京の共催イベント「HIVとカミングアウト」では、Gフレから3人がスタッフとして参加しました。こうした多様なセクシュアリティの方が集まる機会に、HIVの話題をきちんと入れていくことが大事な、とスタッフ一同改めて実感する機会となりました。

今年もNLGR+2013に参加

名古屋で開催された夏の恒例イベント「NLGR+」には、今年もGフレスタッフがCBO合同ブースのメンバーとして加わったほか、同性結婚式にはふれいす東京のスタッフも多数参加しました。天気にも恵まれた感動的なイベントになりました。イベントのレポートは7～8ページをご覧ください。

「QOGL vol.3」は8/4に開催

第3回となる「QOGL～Quality of Gay Life」は8/4に開催。今回のテーマは「肌のトラブル」とし、初めてゲイ・バイセクシュアル男性に限定せず様々なセクシュアリティの方に参加いただける形式にします。イベントの様子は次号ニュースレターでご報告します。

(報告: sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績2013年4～6月

	4月	5月	6月
電話による相談	142	129	142
対面による相談	56	60	61
E-mailによる相談等	147	149	131
うち新規相談	16	24	34

※メール新規は含まず

4～6月の新規相談者の属性 (N=74)

陽性者: 40人 (男性: 37 女性: 3)
パートナー: 13人 (男性: 8 女性: 5)
家族: 6人 (男性: 2 女性: 4)
専門家: 7人 (男性: 2 女性: 5)
判定保留: 5人 (男性: 5 女性: 0)
その他: 3人 (男性: 3 女性: 0)

4～6月新規相談者の情報源 (N=77 複数回答)

WEB(PC/携帯サイト含): 39件
医療関係(Dr./Ns/クリニックなど): 8件
陽性者/パートナー: 7件
人的ネットワーク(家族、友人など): 4件
以前から知っていた: 4件
エイズ電話相談(財団/東京都/ふれいす等): 3件
冊子/パンフレット/チラシ: 3件
他団体: 2件
カウンセラー: 1件
不明: 6件

4～6月新規相談の内容

【ふれいす東京のサービス利用、問い合わせ、積極的参加】

〔東海、近畿〕

- ・利用登録と各プログラム参加(複数参加も含む) 16件
(ピアトーク: 2 ミドル: 2 異性愛: 2 U40: 4
新陽性者PGM: 2 就職: 2 介護職: 1 利用登録のみ: 2)
- ・看護職ミーティングに参加希望
- ・他の陽性者と交流したい(外国人)。

【検査や告知に関する相談】

- ・パートナーが陽性で自分も検査で陽性が判明。

〔判定保留/確認検査待ち〕

- ・術前検査で陽性、福祉制度について、利用時のプライバシー
- ・ネット検査で陽性、今後の通院、パートナーへの通知
- ・保健所で確認検査待ち、検査の信憑性、告知後の混乱
- ・術前検査で陽性、確認検査待ちでの混乱
- ・治験の血液検査で陽性、確定検査の結果待ち、検査の信憑性。

【告知直後の漠然とした不安】〔東海、甲信越〕

- ・術前検査で判明、告知直後の不安や混乱
- ・告知直後の混乱、病気の受容、学生生活と今後について

【対人関係に関する相談】

- ・親や兄弟への通知
- ・パートナーとの関係性

【生活に関する相談】〔近畿〕

- ・住宅の購入、ローンについて
- ・海外から帰国後の生活や経済的な問題
- ・海外移住について

- ・出産と生命保険の利用

〔就労〕

- ・職場への通知 4件
服薬と仕事の両立、副作用での休暇取得、障害者除後、就職時
- ・復職時の会社への休職理由の説明
- ・通知後の雇用先の対応への不満
- ・発症で療養中、今後の就労について 2件
免疫再構築の大変さ、不安
- ・今後の就労の継続、生活に対する焦燥感、あせり
- ・就職活動について（外国人）

【医療体制や受診に関する相談】〔中国/四国、九州/沖縄〕

- ・告知直後の医療機関の選択 2件
- ・地方都市での転院 2件
医療者とのコミュニケーション不良、服薬の変更や転院先について
- ・東京近郊での歯科の通院
- ・4年間病院に行っておらず漢方で治療中

【周囲の人からの相談】〔北海道/東北、甲信越、東海、中国/四国〕

〔パートナー/配偶者〕

- ・通知を受けての混乱 4件
- ・パートナーとの関係性 2件
- ・陰性パートナー・ミーティング参加希望
- ・パートナーの通院、医療機関の選択や障害者制度
- ・復縁、金銭的な問題
- ・周囲への通知のしにくさ、将来への不安
- ・自身の感染の可能性、無料検査について
- ・通知後のパートナーと会社との関係性

〔家族（親、きょうだい）/親戚〕

- ・もめんの会の参加 2件
- ・就労と精神科受診、他陽性者との交流
- ・介護時の感染の可能性について
- ・本人のカウンセリングの利用
- ・本人の薬物依存からの回復
- ・こどものセクシュアリティの受容

〔その他〕

- ・（友人）通知後の関係性、友人とのsexと予防
- ・（確認待ちパートナー）妊産婦検診のスクリーニング検査の信憑性

〔専門家〕

- ・（福祉）デイサービスの受け入れについて
- ・（企業人事）陽性者の担当者から今後の採用について
- ・（NPO）地方での新規プログラムの委員の依頼
- ・（弁護士）拘留中の方の対応について
- ・（MSW）専門職の陽性者の職場への健康診断書の提出について

- ・（福祉）在宅療養中の身体に障害のある方の一人暮らしについて

（報告：牧原／生島／福原／神原）



研究・研修部門

研究事業

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」

（研究代表者：樽井正義）

- ・5月23日：平成24年度総括・分担研究報告書を発行。
- ・5月26日：平成25年度第1回班会議を開催（於ふれいす東京）。参加者7名。
- ・6月15日：肥田分担研究会議を開催（於アパリ・クリニック上野）。参加者3名。

「地域における HIV陽性者等支援のためのウェブサイト」（<http://www.chiiki-shien.jp/>）も、総括・分担研究報告書のPDF版を公開するなど、随時更新しています。

その他の研究

- ・4月22日：上木班会議に参加。

研修事業

受託研修協力

- ・6月1日～2日：青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修（シェア＝国際保健協力市民の会主催）に運営協力。参加者8名。

職場研修（東京障害者職業センター「雇用管理サポート」事業など）

- ・5月31日：IT企業にて講演。参加者3名。
- ・6月24日：IT企業にて講演。参加者3名。

その他の研修

- ・5月28日～29日：愛媛県保健師研修会にて講演。
参加者9名+地元NGOスタッフ5名。
- ・6月3日：ヤンセンファーマにて講演。参加者12名。
- ・6月9日：放送大学にて講義。参加者12名。
- ・6月16日：放送大学にて講義。参加者14名。
- ・6月21日：東京都保健所職員研修会にて講演。参加者32名。
- ・6月29日：聖学院中学校・高等学校にて講義。参加者12名。

（報告：生島／牧原／大槻）

新人ボランティア合同研修・オリエンテーションのご案内

ぷれいす東京では、今年も活動に参加できるボランティアの募集と研修を開催します。性別、年齢、セクシュアリティ、HIV/エイズの知識や活動参加の経験の有無などは問いません。興味のある方は、どんなでも参加できます。

ぜひオリエンテーションにご参加ください。活動に参加する／しないは、オリエンテーション終了後に決めていただいてもかまいません。ただし、ボランティア・スタッフとして活動を希望される方は、その後に行われる3日間の基礎研修を受講し、修了後必ず1年間は活動に参加できる方とさせていただきます。

ボランティアを募集している活動

- ・HIV/エイズ電話相談
(感染不安のための電話相談)
- ・バディ (HIV陽性者のための直接ケア)
- ・Gay Friends for AIDS
(ゲイによるゲイ・コミュニティ向け予防啓発活動)
- ・Peer Empowerment Program
(オトナの女性向け予防啓発活動)
- ・ネスト・プログラムの運営のサポート
(陽性者と周囲の人のプログラム)
- ・Webのデザイン、更新作業、事務作業や発送作業のお手伝いなど

■ 新人ボランティア・オリエンテーション

[日時] 2013年9月1日(日)

14:00～16:00(受付は 13:45開始です)

※参加希望の方は、あらかじめメールか電話でご連絡ください。

[会場] 新宿NPO協働推進センター 501会議室(5F)

東京都新宿区高田馬場4-36-12

(JR高田馬場より徒歩15分／都営バス 飯64・上69「小滝橋」下車徒歩4分)

[当日のお問い合わせ先]

ぷれいす東京 携帯電話：080-5387-8341
(13:00～)

■ 研修日程(各日10～17時の予定)

9月8日(日)

9月15日(日)

9月22日(日)



昨年度の研修風景

※研修内容や場所等の詳細については、オリエンテーションで説明します。

※研修に参加したいがオリエンテーションの都合がつかない、という方は一度ご相談ください。

[申し込み・問い合わせ先]

TEL 03-3361-8964(月～金 12～19時)

E-mail: office@ptokyo.com

担当：牧原



編集後記

- ・少しでも涼しさを感じられればと、せせらぎの音や波の音をYouTubeで聞きながら仕事することが多いです。ほんとと避暑地でのんびりしたい気分だけど…(こんどう)
- ・ぷれいす東京は1994年4月に誕生した。同年にデレク・ジャーマン、ランディ・シュルツがエイズで亡くなり、トム・ハンクスが「フィラデルフィア」で陽性の弁護士を演じ、アカデミー賞を受賞。8月には横浜国際エイズ会議がアジアで初開催され、我が池上さんが大活躍。来年、ぷれいす東京は20周年を迎える。(いくしま)
- ・うだるような暑さです。去年のいまごろは入院していたんだなぁとしみじみと……。季節がめぐり一年経つのが何と早いこと。(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403

TEL: 03-3361-8964(月～土 12～19時 ※祝祭日を除く)

FAX: 03-3361-8835

E-mail: office@ptokyo.com

ぷれいす東京: <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>

web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>

Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)

Facebook: <http://www.facebook.com/PLACETOKYO>